

社会福祉法人大北社会福祉事業協会 定 款

(昭和32年7月22日 厚生省長社第263号設立認可)

変更経過

(昭和35年4月15日)	厚生省長社第129号	変更認可)
(昭和40年5月21日)	社 庶 第 1 9 6 号	変更認可)
(昭和51年4月16日)	厚生省長社第388号	変更認可)
(昭和53年3月16日)	厚生省社第280号	変更認可)
(昭和55年1月29日)	厚生省社第88号	変更認可)
(昭和57年3月12日)	57大北社第72号	変更届)
(昭和59年9月5日)	厚生省社第696号	変更認可)
(昭和60年12月4日)	厚生省社第920号	変更認可)
(平成元年3月23日)	長野県指令63厚第787号	変更認可)
(平成2年3月3日)	元大北社第54号	変更届)
(平成4年2月6日)	長野県指令3厚第730号	変更認可)
(平成4年7月21日)	長野県指令4厚第370号	変更認可)
(平成5年5月13日)	5大北社第15号	変更届)
(平成6年4月1日)	長野県指令6厚第22号	変更認可)
(平成7年5月16日)	7大北社第18号	変更届)
(平成8年12月9日)	長野県指令8厚第693号	変更認可)
(平成9年3月19日)	8大北社第140号	変更届)
(平成12年2月4日)	長野県指令11厚第853号	変更認可)
(平成12年11月28日)	長野県指令12厚第779号	変更認可)
(平成14年3月18日)	長野県指令13厚第915号	変更認可)
(平成14年11月18日)	14大北社第71号	変更届)
(平成16年3月29日)	長野県指令15厚第1389号	変更認可)
(平成17年3月17日)	長野県指令16厚第967号	変更認可)
(平成18年3月30日)	長野県指令17厚第748号	変更認可)
(平成21年7月17日)	21大北社第61号	変更届)
(平成23年6月17日)	長野県指令23地福第224号	変更認可)
(平成24年8月16日)	長野県指令24地福第315号	変更認可)
(平成24年12月28日)	長野県指令24地福第501号	変更認可)
(平成25年7月5日)	長野県指令25地福第252号	変更認可)
(平成26年3月31日)	長野県指令25地福第677号	変更認可)
(平成28年6月10日)	28大北社第10号	変更届)
(平成29年2月3日)	長野県指令28地福第607号	変更認可)

社会福祉法人大北社会福祉事業協会定款

第1章 総則

(目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第一種社会福祉事業

(イ) 救護施設の経営

(ロ) 特別養護老人ホームの経営

(2) 第二種社会福祉事業

(イ) 老人デイサービス事業の経営

(ロ) 老人短期入所事業の経営

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人大北社会福祉事業協会という。

(経営の原則等)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を确实、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、地域の独居高齢者、子育て世帯、経済的に困窮する者等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を長野県大町市大町1058番地33に置く。

第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員10名を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は、監事3名、外部委員2名の合計5名で構成する。

3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後四年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員には、報酬は支給しない。

2 評議員には費用を弁償することができる。

第3章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

2 評議員会に議長を置く。

3 議長は、その都度評議員の互選で定める

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

(1) 理事及び監事の選任又は解任

(2) 理事及び監事の報酬等の額

(3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準

(4) 予算、事業計画及び事業報告の承認

(5) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄

(6) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）の承認

(7) 定款の変更

(8) 合併

(9) 解散（合併又は破産による解散を除く。以下この条において同じ。）

(10) 残余財産の処分

(11) 基本財産の処分

(12) 社会福祉充実計画の承認

(13) その他この法人の業務に関する重要事項で、理事会において必要と認める事項

(14) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎年度5月に1回開催するほか、臨時評議員会は必要がある場合に開催する。

(招集)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

(1) 監事の解任

(2) 定款の変更

(3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議事録)

第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名がこれに記名押印する。

第4章 役員及び職員

(役員の数)

第15条 この法人には、次の役員を置く。

(1) 理事 6名

(2) 監事 3名

2 理事のうち1名を理事長とする。

3 理事長以外の理事のうち、1名を常務理事とする。

4 前項の常務理事をもって社会福祉法第45条の16第2項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、この法人の業務を分担執行する。

3 理事長及び業務執行理事は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した理事又は監事の補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

3 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 役員報酬については勤務実態に即して支給することとし、役員の地位にあることのみによっては支給しない。

2 役員には費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は評議員会において別に定める。

(職員)

第22条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

(構成)

第23条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

2 理事会に議長を置き、議長はその都度選任する。

(権限)

第24条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

第25条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第26条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、社会福祉法第45条の14第9項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条の要件を満たしたときは、理事会

の決議があったものとみなす。

(議事録)

第27条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第6章 資産及び会計

(資産の区分)

第28条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産、公益事業財産の三種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(1) 長野県大町市平 1091 番地 7 所在の鉄筋コンクリート造亜鉛メッキ鋼板
葺地下 1 階付 2 階建 救護施設れんげ荘 4 棟 (3,178.02 m²)

(2) 長野県大町市平 1091 番地 7 所在の鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建
救護施設れんげ荘車庫 1 棟 (42.54 m²)

(3) 長野県大町市平所在の救護施設れんげ荘敷地 2 筆 (8,979.59 m²)

内訳

(ア)大町市平 1091 番 7 (宅地 8,956.59 m²)

(イ)大町市平 1091 番 16 (原野 23 m²)

(4) 長野県大町市平 1285 番 1 (雑種地 182 m²)

(5) 長野県北安曇郡池田町大字池田 1942 番地 1 所在の鉄筋コンクリート造
合金メッキ鋼板葺地下 1 階付平屋建 特別養護老人ホーム高瀬荘 1 棟
(1 階 4,287.74 m² 地下 1 階 259.01 m²)

(6) 長野県北安曇郡白馬村大字神城字天神原 22847 番地 2 所在の鉄筋コン
クリート造鋼板葺 3 階建 特別養護老人ホーム白嶺 2 棟 (5,013.3 m²)

(7) 長野県北安曇郡白馬村大字神城字天神原所在の特別養護老人ホーム白嶺敷地
3 筆 (13,613.7 m²)

内訳

(ア)北安曇郡白馬村大字神城字天神原 22847 番 2 (宅地 10,584.78 m²)

(イ)北安曇郡白馬村大字神城字天神原 22844 番 1 (雑種地 2,786 m²)

(ウ)北安曇郡白馬村大字神城字天神原 22852 番 5 (宅地 242.92 m²)

(8) 長野県北安曇郡池田町大字池田 1942 番地 1 所在の特別養護老人ホーム高瀬荘
敷地 (宅地 8,155.97 m²)

(9) 現 金 100 万円

3 その他の財産は、基本財産、公益事業財産以外の財産とする。

4 公益事業用財産は第36条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。

5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第二項に掲げるため、必要な
手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第29条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承
認を得て、長野県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる
場合には、長野県知事の承認は必要としない。

(1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合

- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

（資産の管理）

第30条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

（事業計画及び収支予算）

第31条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の決議を経て、評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、法人事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（事業報告及び決算）

第32条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
- (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

- 3 第1項の書類のほか、次の書類を法人事務所に5年間備え置き一般の閲覧に供するとともに、定款を法人事務所に備え置き一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

（会計年度）

第33条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

（会計処理の基準）

第34条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

（臨機の措置）

第35条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分2以上の同意がなければならない。

第7章 公益を目的とする事業

(種別)

第36条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

(1) 居宅介護支援事業

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分2以上の同意を得なければならない。

第8章 解散

(解散)

第37条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第38条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第9章 定款の変更

(定款の変更)

第39条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、長野県知事の認可（社会福祉法第45条第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を長野県知事に届け出なければならない。

第10章 公告の方法その他

(公告の方法)

第40条 この法人の公告は、社会福祉法人大北社会福祉事業協会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第41条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

会長（理事） 金原 多可

理 事 大日向寅三

理 事 下川茂登次

理 事 中村 恵

理 事 北沢 善彌